

2021年度 学校経営計画表

1. 学校の現状

学校名	常磐大学高等学校		課程	全日制	理事長名	小櫃 重秀		校長名	柏 正則			
副校長名	柴田 幸義				教頭名	井上 圭子		事務長名	齊藤 久展			
教職員数	教諭	73	養護教諭	2	常勤講師	1	非常勤講師	18	事務職員	6	合計	103
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	クラス数		
	普通科	124	273	156	264	128	198	408	735	35		

2. 目指す学校像

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」をバランスよく身につけた人間を育てる学校を創る

「確かな学力」とは、自ら学ぶ姿勢や、課題を発見し、解決していく能力を指す

「豊かな心」とは、豊かな人間性と周りの人々を思いやる心を指す

「健やかな身体」とは、たくましく生きていくための健康や体力を指す

3. 目指す生徒像

「考え 挑み続ける」

- 1) 自ら課題を発見し、解決するために探究し続ける生徒
- 2) 多様性を尊重し、他者を思いやる心や協働力を持ち、他者貢献できる生徒
- 3) 自律意識を持ち、心身の健康に努め、粘り強く努力することができる生徒

4. 中期的目標

- 1) 主体的に学び考え、成長意欲と行動力を備えた人間を育成する
- 2) 高い倫理観のもと「他者信頼」「他者貢献」「自己受容」ができる人間を育成する
- 3) 職員の資質能力と組織力の向上に努める
- 4) 学校法人常磐大学内の各設置学校との連携を強化する
- 5) 地域から愛される学校となる

2021年度 学校経営計画表

5. 本年度の目標と取り組み

重点項目	重点目標
教育・学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習できる能力を高める ・見通しをもって計画的に行動する能力を高める ・学ぶ意欲の喚起と学力定着のための授業改善 ・職員チームでの学習支援を目指す
特色ある教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究」を軸とした教育活動の推進 「課題発見力」「情報収集力」「論理的思考力」「問題解決力」「情報発信力」「国際的視野」 「コミュニケーション能力」「協働力」の育成 ・ICT教育の推進 ・国際社会を生きるための実践的英語力の向上
キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画（ロードマップ）による3年間を見通した系統的な支援 ・生徒一人一人に対するきめ細かな進路指導 ・豊富な進路情報の提供 ・常磐大学・常磐短期大学との連携の強化
総合的な「人間力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・自律した行動の基礎となる生活習慣の確立 ・学習と部活動、学校行事などにバランスよく取り組む態度の育成 ・他者を思いやる心と自己肯定感の醸成 ・クラスの団結力、学校への帰属意識を高める ・地域のボランティア活動等への参加を促進
生徒募集の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲の高い受験生を確保する ・オープンスクール等での効果的な広報活動を推進 ・Web出願等において、受験生の利便性向上を図る

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストや古文単語などの小テストや課題を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・家庭学習においては、スタディサプリの授業動画なども積極的に活用し、授業の補強を行う。 		
	読書への興味関心 および表現力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教材に関連する本を紹介し、発展学習に繋がられるようにアドバイスをする。 ・小論文などの指導において、読書を通して得た知識を基に自らの考えを確立し、相対する意見を踏まえながら論述する手法を習得させる。 		
	自学自習力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークブックやプリントなどで学習内容を復習できるようにして、自主的に学習する力を養う。 ・定期考査の作問を工夫し、授業で得た知識を一般化して応用的に活用できる力を身につけさせる。 		
地歴公民科	基礎学力の定着と理解 の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識習得の徹底を、個々の学習状況に応じて支援を綿密に行う。 ・毎回の授業における振り返りの時間を設け、生徒の学習状況を細かく把握して指導につなげる。 		
	社会に対する興味関心 の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や新聞記事などを活用し、生徒が主体的な意欲を持って取り組める教材を開発する。 ・タブレットを活用して生徒が学び合い、社会現象を多角的に捉える授業を展開する。 		
	豊かな思考力・判断 力・表現力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を設定し、レポートを作成する経験を積ませる。 ・考査の設問において、思考力・判断力・表現力を問うものも取り入れる。 		
数学科	授業内容の工夫と基 礎・基本の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや教え合いを授業時間内に積極的に行わせることで、能動的に授業に参加するきっかけを設けるとともに、理解の定着を促す。 		
	受験で数学を諦めない 姿勢の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に授業や課外を通して模擬試験の過去問の解説を行うなどして、教科書レベルから標準的なレベルへの移行を促す。 		
	透明性の高い評価基準 の周知	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを作成、配布することで、公平に評価基準を把握することができるようにする。 		
理科	生徒の実態・理解度に 応じた授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、実習を取り入れながら科学的に物事を見る力を養うとともに、上級学校への進学後に必要な学力を身に付けさせる。 ・指導法の工夫や改善に努め、わかりやすい授業の展開を目指す。 		
	授業時間確保の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交換により自習時間をつくらないことを基本とするが、やむを得ず自習時間が生じた場合は、課題を準備し理科教員が補充にあたる。 		

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健体育科	心身の健康への理解および様々な問題に立ち向かう精神力と体力の育成	・保健指導並びに体育実技指導の両面から、個々にあった具体的な目標を持たせることで、達成感や充実感を味わえるような機会をつくり学習させる。		
	基礎体力、個人技能、集団技能の向上と、安全に協力して楽しく運動に取り組む姿勢の育成	・様々な種目を学習することで、その運動の特性を知り、個人を認め合い協力していく姿勢を学習させ、個人・集団技能の向上を図る。		
		・クラスマッチなどによりルールやマナー、協調性、思いやりの心を身につけさせる。		
芸術科	個性豊かな人間性と情操の育成	・鑑賞の質を向上させるため、近隣の美術館やホールの活用をし、本物の芸術と触れ合う機会を作る。 ・時代や社会に合った新しい教材の開発、自由課題の取り組み等によって総合的な能力の開発をする。		
	基礎表現力の育成	・生徒の実態に即した年間学習計画を立て、計画に沿った学習指導に努める。		
	個人の能力・進路に応じた指導	・個別指導に努め、個人の能力、適性に応じた細やかな配慮をする。		
	教科の協力推進	・音楽・美術・書道の情報交換を密にし、常に芸術科の目標、問題点を確認する。		
英語科	基礎学力の向上と定着	・Tokiwa Can-doを通して、各学年のゴールを具体的に意識し、各技能向上をはかる。		
	自分の考え感想を英語で表現する活動の充実	・コミュニケーション英語の授業を中心に、音読活動を通して語彙力を高め、読解速度を高め、より多くの英文に触れる。 ・英語で知識を得る喜びを体験しながら、自分自身の考えを述べる。		
	典型的な英語表現力の運用力向上	・英語表現の授業を中心に、典型的表現を用いて、英作文等を重ね、ペアワーク、プレゼンテーション活動、オンライン英会話を通して、実際に活用する機会を増やす。		
	英語検定等、資格試験チャレンジの奨励	・授業を通して培った英語力がどのようなレベルに達しているか自己分析と他者へのアピールの材料の1つとして、検定のアナウンスと受検のための後押しを0限ゼミ等を通して行う。		

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
家庭科	生活に必要な基本的知識・生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材を提供する。 ・生徒一人一人の進捗状況に応じた指導を行う。 ・施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。 		
	自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして、自らの生活課題の解決を図ることができるようにする。 		
情報科	コンピュータや情報ネットワークを活用する知識や技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・Word・Excel・PowerPointのソフトを活用できるようにする。また、検定試験に挑戦させ、習熟度を確認する。 ・コンピュータやネットワークを活用して、情報を適切に収集・処理・発信する基礎的な技術と技能を習得させる。 		
	情報を正しく扱うためのマナーやルールを理解および主体的に活用する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・研究レポートの作成を通して、情報を収集し、必要な情報を利用する力を育成する。また、画像の利用を通して、著作権やマナーを理解させる。 ・発表体験を通して、自分の考えをまとめ、主体的に相手に伝える力を育成する。また、グループワークを通して他の意見との比較をさせる。 		

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	新学習指導要領に基づく教育課程の完成	各教科と共通理解を図りながら、教育課程を編成する。		
	各分掌間の円滑な連携と教育活動の活性化	教育活動が円滑に行われるよう、全職員の共通理解と協力態勢を構築する。		
	外部への情報提供を活性化	部活動の活動報告だけでなく、各学年や各部の行事を積極的にアップする。		
	新教務システムの導入と円滑な運用	適切な教務システムを選定し、業務効率化や教育の質の向上を図る。		
	学校行事の円滑な運営	各部、各学年との連携を密にして、学校行事が円滑に実施されるよう努める。また、終了後は広く意見を集約し検証する。		
生徒部	生徒の問題行動の事前防止と抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・校内、校外の巡視を実施し、生徒たちが生活しやすい環境をつくる。 ・常磐大学高校生らしい、品位ある服装やマナーを身につける。 		
	他者を思いやる心の醸成を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、豊かな人間性を育み、高校生としての人格を形成する。 ・感染による、偏見や差別をなくし、生徒と教職員が協力して明るい生活環境をつくる。 		
	SNSに関する問題行動の防止、対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア講演会を全校生徒向けに実施し、ネットリテラシーを高める。 		
入試広報部	広報誌・学校案内パンフレットを通じた学校理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内パンフレット・広報誌（T-Color）等を通して、本校の教育活動を紹介する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・選択される学校になるための教育活動について積極的に発信する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・本校受験役立つ情報を発信する。 		
	ホームページ・SNS等による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・SNS等を通して、的確で速やかな情報発信を行う。 		
	学校見学会の実施および説明会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期、内容を各地域の中学校に周知し、参加を呼びかける。 ・参加者に本校の特色を知ってもらい、本校への理解を深める。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校で行われる私立高校説明会や進学相談会等に積極的に参加し、本校の取り組みについての理解を深める。 		
ニーズ調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 説明会参加者へのアンケートおよび入学生とその保護者へのアンケートを実施し、ニーズを捉え、活動に反映する。 			

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健部	生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送る支援の確立	・保健室経営計画に基づき、適切な保健室経営を行う。		
		・保健室利用時に健康相談等がしやすい環境づくりに努め、担任や学年、教科担当者、保護者やスクールカウンセラーと連携を図る。		
		・各健康診断を学校医・学校歯科医と連携しながら適切に実施し、生徒の健康状態を速やかに把握する。その結果、異常や疾病の疑いのある生徒には、出来る限り速やかに受診勧奨を行う。		
		・マスクの装着や手洗いの励行、正しい知識の定着、教室の環境整備（換気や消毒）をとおし、新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防に努め、健康の保持・増進に繋げる。		
		・生徒が自主的に心身の健康管理ができる力の醸成を図るため、保健だより・相談室だより、掲示物などを作成する。		
	教育相談活動の充実	・週2回のスクールカウンセラーのカウンセリングを適切に調整・実施し、切れ目のない支援に繋げる。 ・生徒のコミュニケーションスキルの一助となるよう、グループエンカウンターやアサーショントレーニング等を企画・実施する。		
健康的で快適な学習環境整備	・学校薬剤師による環境衛生検査を適切に実施し、不十分な点があれば全教員で共通理解し、改善するよう努める。			
進路部	生徒の進路希望の実現	・各学年ごとに生徒が主体的に進路を考え、それに基づいて適切な行動ができるようにする。 ・進路室の利用が活性化するように努める。 ・長期的視野に立ち将来設計ができるようにする。		
	進学についての共通理解を深める	・学年・担任・進路部が共通理解のもと、生徒の進路を考える体制をつくる。 ・模試の効果的活用を図る。分析ソフトやインターネットを利用し生徒に還元できる情報を収集する。		
	実態に応じた適切な進路情報の保護者へも提供する	・クラッシーを通じて進路情報の提供を進める。 ・保護者対象の進路講演会を適切な時期に開催する。		

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
特別活動部	生徒主体の学校行事	・新入生歓迎セレモニー、総体壮行会、部活動引き継ぎセレモニーにおいて、できる限り形式的にならないよう心がける。		
		・未熟な分野に関しては教員から指導・助言をしながら、実行委員の生徒が積極的にときわ祭の企画・運営に携われるよう支援する。		
	活発な生徒会活動	・意見箱の活用、活発な生徒評議会・生徒総会を通して、よりよい学校作りに貢献する。		
		・クラスマッチにおいて、今まで以上に企画や運営に自主的に関わる。		
	委員会の見直し	・新しい委員会の設置を検討するとともに、形骸化している委員会の見直しを図る。		
	3年間を見通したLHR活動	・学年、教科、進路、生徒部と連絡を密にし、3年間を見通したHR活動の検討を図る。		
部活動の活性化	・部活動・同好会活動を盛り上げるとともに、学習面との両立を図る。			
	・集団活動を通して、自主性・責任感・協調性・連帯感を育成する。			
研究開発部	体系的な探究学習プログラムの構築	特進選抜コース ・個人課題研究を見据えた資質・能力の育成につながるプログラムの改善を図る。		
		特進コース ・SDGsやキャリア教育を意識した体系的プログラムの改善を図る。		
		・研修や発表会を通じた教員意識の醸成する。		
	評価指標の検討	・学校が目指す資質・能力と関連づけたルーブリックを作成する。		
		・学びみらいPASSなど評価アセスメントの効果的利用をする。		
	ICT教育の普及と情報リテラシーの育成	・ICT活用指導力の向上をめざし、研修の充実や教科の実践例の蓄積を通して、ICT教育の普及に努める。		
・情報リテラシーの育成のために、ロイロノートやGWEの機能に注目した本校独自プログラムを作成する。				
学校外機関との連携強化	・学問への関心を高め、汎用的能力を育てる大学特講を展開する。			
	・外部機関と連携し、生徒の視野を広げるプログラムを構築する。			
国際教育	異文化体験（留学等）による異文化理解と語学力の養成、国際社会で活躍できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度向けカナダ3か月語学留学およびサマーキャンプの充実を図る。 ・各種スピーチコンテスト等への参加を促す。 ・ホームページにおける情報提供をする。 ・オンライン形式のコンテンツについて情報収集をし、本校において実施可能な取り組みを検討する。 		

2021年度（令和3年度）常磐大学高等学校 自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
1学年	基本的な生活習慣の確立	・クラスや学校での集団生活に必要なルールとマナーを理解させ、自律的な生活が送れるようにする。		
	基礎学力の向上	・学習の基本が授業であることを認識させ、家庭学習習慣化との相乗効果を図る。		
		・担任面談・コース面談を通し、生徒と課題を共有することで支援の充実を図る。		
	キャリア教育の充実	・キャリアガイダンス等を通し、自己の適性や関心を見つめ直し職業観を広げ、進路選択へ向け意識の向上を図る。		
		・タイムマネジメントを意識させ、課題達成に向け逆算する力とともに計画的に行動する力を育む。		
特別活動への参加	・部活動や学校行事などにバランスよく取り組み、主体的に行動することの意義を理解させるとともに他者を思いやる心を育む。			
2学年	自律に基づく生活習慣の確立	・問題行動の防止・早期発見・早期指導に努める。 ・服装・頭髪指導を継続的に実施する。		
	学習指導の充実	・学習の基本が授業であることを認識させ、家庭学習の習慣化を図る。 ・スタディサプリなどの教材の活用によって学力向上を図る。		
	進路目標のさらなる明確化	・キャリアガイダンス、オープンキャンパス、インターンシップ等を活用して、自己の興味・関心及び適性を考え、将来の学部・学科等の絞り込みを行う。		
	修学旅行の充実	・事前指導を十分に行い、団体生活に必要な規律やマナーを学習させ、協力性と団結力を養う。 ・資料館などの見学を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを学習させる。		
3学年	基本的な生活習慣および最高学年としての自覚と品位の確立	・清掃の徹底、教室整備など学習環境を充実させたり、挨拶の励行、制服の正しい着用など規則正しい生活を習慣化させることで学習に集中できる環境を保つ。 ・遅刻や欠席などの防止について、家庭との連絡を密にする。		
	進路目標の具体化および実現のための様々な力の養成	・日々の授業の大切さを認識させ、かつ、予習や復習など家庭学習の確保と定着化を図り学力向上に繋げる。 ・受験に関する最新情報を生徒、保護者に提供する。 ・面談を適宜行い、自己理解を深めさせて生徒一人一人に対応した進路指導を実施する。 ・探究やHRの授業を利用して小論文や面談について学ぶ時間を設け、受験期には複数の教員で個別に指導する。 ・習熟度や進路希望に応じて、0 現ゼミや長期休業中のゼミを充実させる。		
	社会規範の遵守など、進学や就職に必要な社会性の確立	・HRの授業などで、社会生活におけるマナーの大切さや時事問題などに触れる機会を持つ。 ・表現学習ノートの活用や面接練習などで、受験だけではなく社会人として役立つような自己表現力を身につけさせる。		

判定規準 A:大変よくできた B:よくできた C:ふつう D:やや不十分 E:不十分